

授業科目

聴覚障害III

担当教員名 吉岡 豊	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○	○	○

授業の概要

聴覚障害児・者にとって必要な補聴器・人工内耳の基本的事項を理解する。

授業の目的

聴覚障害児・者に対する情報保障の1つである補聴器・人工内耳の仕組みを理解する。

学習目標

1. 補聴器の種類と適応を理解する。
2. 補聴器に関係する用語を説明する。
3. 補聴器の調整装置の効果を記述できる。
4. 聴覚機能検査に結果と補聴器の出力特性を関係づける。
5. 補聴器装用効果の測定する。
6. 訴えに応じて補聴器を調整できる。
7. 人工内耳の構造とマッピングについて理解する。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	補聴器の種類と適応	講義	吉岡 豊
2	補聴器に関する基本用語と特性表の見方	講義	吉岡 豊
3	補聴器の出力を調整する方法	講義と実演	吉岡 豊
4	聴覚機能検査結果と補聴器適合への流れ	講義	吉岡 豊
5	挿入利得の算出	講義	吉岡 豊
6	補聴器装用効果測定	講義	吉岡 豊
7	訴えに合わせた補聴器の調整	講義	吉岡 豊
8	人工内耳について	講義	吉岡 豊

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	改訂第3版 補聴器フィッティングの考え方	小寺一興	診断と治療社	2010年	3,200円+税	
	聴覚検査の実際 改訂3版	日本聴覚医学会	南山堂	2009年	3,400円+税	2年次の聴覚障害I演習で購入済み
参考書	言語聴覚士のための聴覚障害学	喜多村 健	医歯薬出版	2002年	4,000円+税	
	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学	中村公枝、城間将江、鈴木恵子 編集	医学書院	2010年	5,200円+税	
その他の資料						

評価方法

成績は定期試験の点数をもって評価する。

履修上の留意点

補聴器は自分で操作して音を聞くことが学習の早道です。また、音響学や聴覚心理学、聴覚機能検査、聴覚障害に関する知識も必要になってくるので十分に復習しておいて下さい。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー：毎週水曜9:00～10:00

連絡先：yoshioka@nuhw.ac.jp